

## 赤木陸範の作品を巡って

### 大分市美術館 館長

#### 満生 和昭

初期の作品を代表する「蛾のいる静物」（参考図版 Fig.4）は、使用済みの古い和紙にテンペラで、蛾、数珠、ザクロ、青銅器などをトロンプレイユの技法で描いたものである。一般に絵を描くとは、絹、木、キャンバスなどの支持体(基底材)の上に、絵の具(色素)を固定剤(接着剤)で固定していくことであるが、赤木陸範はここで、和紙に書かれた文字や染みの効果を表現に利用している。和紙のほかに、板や麻布などに描いた作品もあるが、その材質の質感や色彩を取り込んでおり、単なる下地と描かれた物との関係で説明できない程一体化している。この傾向は、後のエンコスティックの作品で、より顕著になるが、1991年に発行された「赤木陸範作品集 1」の中で、フランツ・ベルンハルト・ヴァイスハール教授が指摘しており、『下地の存在が、掴める程リアルに描かれた数珠やザクロを、その表出の繊細さにより、日常的に平凡な理解の干渉を拒む高貴さへと昇華させている。』と称賛している。東洋の絵画には、余白を生かす表現方法の伝統があるが、赤木陸範の方法は異質のものである。金地を使用することも同様の効果を狙ったものである。東洋でも西洋でも、中世の宗教画にその使用例が多く見られるが、ゴシックに極めて近いと見ていたのに、ドイツ人には逆に、非常に東洋的に見えるようで、そこに赤木陸範の真骨頂があると思われる。日本で大学院まで学んだ後、今は廃れてしまった古代の絵画技法、エンコスティックの技法を手探りで研究し、自分の絵画表現に応用しようと試みている。赤木陸範の新作展が、ミュンヘン近郊のランツフトで開催されているのを見にいった時、ベルリンへ足を延ばし、国立エジプト博物館へ行った。有名な「ネフェルトイティ王妃胸像」を見るのが目的であったが、偶然、紀元後2世紀頃のローマ支配時代に描かれた「若い女性のミイラ肖像画」に出会った。埋葬された棺の上に描かれたもので、ルネサンス絵画にも劣らぬ写実性に驚かされた。それ以上に、エンコスティックで描かれており、その保存状態が極めて良いのである。顔料が蜜蝋の中に閉じ込められており、永久に

変質することはないそうだ。残念ながらその技術は伝わっていない。赤木陸範がエンコスティックに興味を持ったのは、堅牢な画面のこともあるが、基底材と画面が一体となることにある。つまり、蜜蝋の密度を変えることで濃淡のグラディエーションを表現出来る。またガラスの粉末を混ぜることで、その乱反射を利用し、白く光る部分を描ける。色彩を使うことで、イリュージョンの世界を創造する一般的な絵画表現ではなく、色彩を一切使わないで描くことを試みているのだ。絵画はイリュージョンであることに納得出来なくてエンコスティックの特質に可能性を見出だしたのだ。しかし、ガラスの器、ビニールの袋に入った水などの作品を見た時、試みとしては面白いが、それだけで絵画として存在できるのかどうか、少し疑問に思ったこともある。ランツフトで4年に一度開催される、欧州でも最大規模の歴史行事に数えられている「ランツフトの婚礼」が6月末から7月にかけて実施されるのに合わせ、市庁舎の展示室で新作の個展が6月22日から7月22日まで開かれた。中世のお祭りが延々と続く永遠性を象徴するには、エンコスティックが相応しいと思われた。出品作のうち、「巫女たちの宴」(Cat. No I)や「笛吹く人」(Cat. no V)では、エンコスティックに、テンペラや油絵で色彩を加えている。エンコスティックの特質を犯さない範囲で、不足する色を補っているのだ。熱を加えても変色しない水性の絵の具は前に、変色する卵テンペラや油は後でと、手探りで技法を編み出しての制作である。色彩が加わる分、新たな可能性が見える。「ヘトヴィツヒのオマーージュ」(Cat. no III)では、蜜蝋に色彩を混ぜず吹き付け、高温で焼き付ける試みをしている。高温でしかも流れ出す材料で、均一な画面を作ることは難しい。エジプトの棺に描かれた人物の顔は、恐らくこの方法で描かれていたようで、失われた技術を模索しながら研究を重ねているわけで、その成果が期待される。「ガラスのオブジェのある静物」は、ヴァニタスのシリーズの作品であるが、エンコスティックで表現されたガラスの器と頭蓋骨、テンペラで描かれた植物などのバランスが絶妙であり、深い精神性を持っている。赤木陸範の目指す世界に一步近付いたことを証明していると言っても良い。

エンコスティックへの拘りは、サインに使われるモノグラムへの執着などと共に、錬金術師にも似た特質を現している。彼自身が語るように、古い技術を再生させることは、単なる再現でなく、より新しい未来の表現の可能性を開くこ

とになるのだ。今後も模索は続くであろうが、やがて大きな花を咲かせることを期待したい。